



発行所
長野県下伊那郡高森町
下市田 高森町公民館
発行人
大 洞 利 雄
☎35-9416
印刷所
龍共印刷株式会社



初雪に映える紅葉

インタビュー



専門学校を卒業して、住み慣れた地元に戻り就職しました。
仕事は少し慣れてきました。が、まだまだ覚えることがたくさんあるので先輩を見て、どんどん吸収してい

きたいです。
会社では責任感を持って仕事をするように心がけています。

お客様を相手にするので、少しのミスが信頼を無くし、最悪の場合にはもう店に来なくなってしまう可能性があります。

今までは物事を最後まで責任をもつてすることがあまりできていなかったと思います。社会に出たからは、何事も最後まで責任をもつてやり抜いていきます。
坂牧 保(山吹)

600号に寄せて

高森町長 熊谷元尋

公民館報600号発刊、おめでとうございます。公民館報の600号が発刊されたということは、住民のみなさんが自ら取材をし、そして自ら原稿を書き、その記事を発刊し情報発信するという取り組みが600



回も続いているという、まさに高森町が目指す自治の姿を表しています。

今は「各地域がそれぞれの特徴を活かし自律的で持続可能な社会を目指す」時代、すなわち「地方創生の時代」と言われています。これは「地域の課題を地域住民自らが解決する」という「公民館」の役割と、規模は違えど相通じるところが多々あると感じます。

そのような時代だからこそ、これからもますます公民館の活動は重要になり、また今後どのように実践されていくのが試されている

公民館報「たかもり」

600号にあたり

高森町公民館長 大洞利雄



昭和32年11月1日の公民館報「たかもり」創刊号には、町を代表する方から公民館の持つ社会的な使命に期待する祝辞が数多く記されています。当時の職員は、先人が築いてこられた精神を引き継ぎ、その期待に応えるべく日々努力したとと推察します。

歴代の関係者の努力もあって今回、公民館報「たかもり」は、600号を達成しました。この偉業を皆様とともに喜びたいと存じます。

まちづくりに役立つこと、楽しんで読んでいただく内容であること、多くの方に投稿していただくことが方針に記されており、この方針にそって編集に直接携わってこられた編集部員の皆様は、喜びもひとしおのことと思います。町民の方々からの課題、要望等、生の声をいち早くとらえ、取材、編集、校正等の作業

と云えるでしょう。そして公民館報とは、常に地域課題を捉え、住民に問いかけ、自治の活動につなげていく最初の窓口となるはず

です。
600号の発刊にお祝いを申し上げますとともに、今後の編集部員の皆さんの益々のご活躍にご期待申し上げます。

説 論

昭和32年11月、高森町の誕生とともに、館報「たかもり」が産声をあげて今年で60年、地道に版を重ね、ここに第600号の発刊に至った。過去の記念号には、「町民が知らなければならぬことを、様々な角度から取材検討する」という編集のモットーや、「取材を重ね、2号に分けて掲載した」苦労話などが載っている。第400号には、館報の役割が次のように記されて

住民視点を大切に

つ多面的かつ建設的な記事を取り上げる ②読みやすく親しみやすい紙面づくり ③多くの町民から寄稿・投稿を願う、の3点が挙げられている。今見ても異論を挟は、なかなか目が向かない

公民館報600号発刊、おめでとうございます。公民館報の600号が発刊されたということは、住民のみなさんが自ら取材をし、そして自ら原稿を書き、その記事を発刊し情報発信するという取り組みが600

回も続いているという、まさに高森町が目指す自治の姿を表しています。

歴代の関係者の努力もあって今回、公民館報「たかもり」は、600号を達成しました。この偉業を皆様とともに喜びたいと存じます。



▼冬の足音が聞こえてくると、今年もまたひとつ年を重ねたことを実感します。▼人も樹木のように、年輪を増やしているのかもしれない。木は1年ごとに外側に新しい年輪を作りますが、よく見ると色の薄い部分と濃い部分があるのがわかります。▼薄い部分は早材と呼ばれ、春から夏にかけて成長する部分。どんどん育つので細胞壁の薄い、大きな細胞になるのです。▼濃い部分は晩材と呼ばれ、夏から秋へとゆっくり育ち太陽光の弱い冬には成長も止まるため、細胞壁の厚い小さな細胞になります。それが濃い色になって、はっきりした線になるのです。▼毎年増えていることを繰り返す年輪のように、1年ごとに確かな成長を続けていきたい。私たち人間の歳も、取るのではなく、重ねていくものなのかもしれません。▼過ぎ去った時間を惜しむのではなく、1日1日を大切に積み重ねていけば、今という時間が愛おしく感じられるのではないのでしょうか。▼公民館報「たかもり」は、今月号で600号という節目を迎えました。▼この節目の機会に、昭和41年発刊の100号・200号・300号・400号・500号・600号と過去50年間の館報を読み、高森町の年輪に触れてみました。▼約10年で100号ごとの節目を迎えています。10年間でいふことは、10年間でいふこととやがて変わっていきます。700号・800号に向けて豊かな年輪を築いてほしいと感じる機会となりました。

おらぽの分館自慢

下市田一区

町の中心地

戸数 530戸

(常会加入世帯337戸)

住民数 1,626人

(平成28年10月1日現在)

一区の史跡

○大丸山公園岩跡(空堀)

見張り所がおかれた場所

○南小東側史跡猿楽塚(唐

沢原第1号古墳) 舞台

を設け猿楽を催行

○積善会館南北原遺跡 古

墳時代の方形周溝墓と古

墳跡と弥生時代出土品

○南小南側付近の中世の古

御家城址

○唐沢洞の山の神様

○北村、羽根の秋葉塔

○唐沢の十王様

○北村の郷蔵(年貢米保存

一区の住民で作るグループ

○一勢会○のよさの会○高

寿会○地域農政協議会○い



「いかまい会」で楽しく体そう

かまい会○いきいき倶楽部
○ふれあいレディスバレー
ボールクラブ○下一北クラ
ブ○みのり会○北の原さつ
き会○さくら会

一区独自の活動や行事

○親子おもしろ科学教室

○ふれあいサロン

○ふれあい広場夏まつり

○軽スポーツ・文化交流会

常会対抗の芸能祭に代

わって、今年度第1回を開

催。マレットゴルフ、地元食

材の飲食と踊り等の発表交

流会で、皆さんに好評だった。

一区の住み心地

○役場・学校・図書館・体

育館・資料館等の公共施

設があり、交通の便もよ

く周辺の病院や商店、駅

等の民間施設も近くて住

みやすい。

一区の自慢と今後の課題

○大丸山公園内に

市田地区の戦没

者慰霊之碑や満

蒙関係殉難者慰

霊碑がある。

○大所帯の自治会

なので、「積善会

館」「ふれあい会

館」2つの集会

施設を備え、有

効活用している。

下市田二区

市田柿と共にある「共励の精神」

自治会の未加入世帯が多
いため、情報の提供と加
入案内として一区独自の
「かわら版」(新聞)を年
2回発行している。今後

自治会加入者が増え、災
害時や緊急時にお互いの
け合い安心安全に暮らし、
豊かな自治会活動を皆で
押しすすめたい。

下市田駅前に一際そびえ
る株の巨木は、金部第1号
古墳とともに教育委員会指
定となっています。二区で

は、「共励会」という自治組

織による活動が、昔から行

われてきました。

現在「パーシモン会館」

「共励会館」とも呼ばれてい

る会所では、各種の会合や

活動に加え、高寿会主催の

「あさぎりサロン」が隔月で

行われています。お助けマ

ンと呼ばれる自治会役員も

参加し、健康に関する話題

やオカリナやハーモニカな

どのグループを招いて楽し

く交流を深めています。

その他、18歳から加入で

きる「共星会」は30年の歴

史を持ち、自治会活動の牽

引役となっています。50歳

から70歳の「壮星会」は自

治会の堅固な土台を築く核

となる、頼りになる存在で

す。また、華やかで、陰の

立役者ともなる「明星会」

は子育て世代の女性の集ま

りです。加えてお目付指南

役の「高寿会」と、各世代

での活発な活動がなされて
います。

これらの世代間や新しく

自治会に加入された方との

交流を図るために、二区独

自の行事が行われています。

元日の午後、自治会全戸対

象の新年会や、夏の夜を楽

しむ納涼祭、常会対抗のペ

タンク大会と、秋の大運動

会があります。

年々高齢化が進み、1人

暮らしの世帯やアパートな

どが増えています。同じ地

区に暮らしていても顔も知

らず、挨拶することもない

という都市型の波が少なく

らず押し寄せてきているよ

うです。

常会加入率が比較的高

く、自治会

活動がうま

くいってい

ることは、

適切な集団

の規模ばか

りではなく、

住民同士の

助け合いと

「共励の精



樹齢600年のヒイラギ

下市田三区

力行会

萩山神社から雅楽の音色
が響く。浦安の舞を中高生
の娘さんたちが舞う。参道
では松王、梅王、桜丸に扮
した男の子が獅子を曳きつ
て登ってくる。三区の春

「勤儉力行」からとった力
行会は三区の別の名前で、
相互扶助の精神は、形を変
えながら脈々と受け継がれ
ている。

1年おきに区民運動会と
お好み演芸会を開催して、
常会の結束を強める絶好の
場となっている。急速に宅

地化の進む三区では、古く
からの方も新しくこの地に

下市田四区

亀之丞 ゆかりの地

下市田四区は上段は上市
田・牛牧と接し、東は五区、
北は三区、南は座光寺と堺

林姓、洞常会には木村姓が
多いのが特徴です。また洞
上洞常会の南大島川端には、
三六災害後に新しい家

する位置にあります。一区
や三区と同じように、段級
崖の上と下に広がり、緑豊

が建ち並びました。四
区では、来春からスター
トする大河ドラマ「お

かな野生動物を守り、人々
を連綿とつないでいる萩山
神社は三区の宝のひとつだ。

いなづめの亀之丞が、
幼少期から青年期まで
過ごした松源寺を中心

第三、市場、洞、上洞常会
と連なっています。新井常
会は新井川にちなんでつけ

が行組合活動の盛んな頃の第
三実行組合の第三をそのま
ま常会名にした名残りです。

市場常会は古くからの家も
多く、昔から人の往来も多
い所で、市場が立ったところ

清水庵などがあり、ま

下市田五区

下五へ「おいないう」

高森町最南部に位置する
下市田五区は、飯田市に隣
接する人口613人(28年

比較的交通の便に恵まれた
地区であり、飯田地区への
通勤者も多い。

10月末)の、スポーツや祭
りが盛んな区である。中段
地帯は、国道153号線と

下市田五区に残る歴史的
な地籍は少ないが、日本最
古の貨幣と言われる「富本
銭」が出上した「武陵地1



運動会でころ一つに



松岡城址から伊那谷を望む

号古墳」や「日限地蔵」、また「坂牧城址」などがある。自治会運営を見ると、円滑な活動遂行の支えとなっている幾つかの「会」があるので、ご紹介したい。

①地区実施のイベントなどの助っ人を通じ、仲間の交流を図っている女性達の会「おいなひよの会」

②区内遊休農地を活用し、蕎麦・大豆を栽培し、会員同士の懇親やイベントなどへ蕎麦の提供をしている会「五んべえ倶楽部」

③萩の里祭りへの出店、運動会などの応援・指揮、各種自治会活動の盛り上げ役をしてくれる若者達の会「双葉会」がある。

他にも、④ハンドベルの演奏を通じ、地域交流を図つ

下市田六区

8月18日といえば「市田灯籠流し」

「下市田六区」と聞いて、どの辺りかピンとこなくても、「出砂原」と聞けば、町内の中高年の皆さんなら誰しもが「市田駅周辺」を思い浮かべるでしょう。そう、わりと知名度あるのでは：というのがまずもって『自慢』です。

とはいえ、これでは紙面が埋められないと悩んでいたところ、元々よそ者の私にうつつけの書籍がある聞き、平成10年発行の「出砂原のあゆみ」に目を通して見たのです。

するとびっくり。映画や芝居が見られた「昭和劇場」。東京六大学野球や競馬も行われた「市田球場」。その後、球場跡地には「天竜社市田

ている会「ハニーベル」⑤イベントなどでお茶会を開いている会「一期一会」などあり、各会の協力をいただくなく、円滑な自治会運営がなされている。

課題の一つは区民の高齢化である。区民の65歳以上が約32%、80歳以上は約10%と全国平均を超え、人口も減少傾向にある。

五区独自の高齢化対策とし、月1回「おいなひよ」年2回「おいなひよ」の催しを交流の場として開催、お茶やお昼ご飯の提供、歌ったり、健康体操を行うなどの工夫をしている。

しかし、高齢化対策は、高齢者を支える層への対応が、より重要である。求



武陵地1号古墳～市田柿も今年は終わり～

工場」ができ、寮生活を送る女工さんなどで賑わいを見せた頃、商店、旅館、飲食店などが軒を連ねた「一大商店街」。全盛期には年間3万人余の観光客を迎えた「天竜舟下り市田港」。はあく劇場や野球場があつたなんて：。

これらは全て、出砂原が最も活気に満ちていた「昭和の思い出」となってしまうが、この古き良き時代を知る諸先輩方からすれば、いずれも誇らしく、記憶の中で、今もなお『自慢』に値するのではないのでしょうか。

では、「今あるものは？」と聞かれるならば：。

電車利用から車社会への



夜空を彩る花火

変遷に伴い、かつて繁栄した『出砂原』も、商店街の衰退とともに寂しくなってしまうた感否めませんが、8月18日の「市田灯籠流し」こそは、夏の風物詩として、あと数年で100回を迎えるに至る、現在にまで受け継がれてきた出砂原『自慢』のお祭りです。特に夜空を彩る花火大会は、町民はもとより、近隣市町村民、帰省してくる家族までもが毎年楽しみにしています。出砂原のみならず地域の『自慢』として、この伝統あるお祭りがこれから後世へ脈々と受け継がれていくことを願うばかりです。



今年の納涼祭は焼き肉で！

「あげの坂」は吉田第八常会にある、自然豊かな坂道。かつては子どもたちの通学路で、今は地元の人々が利用する生活道路です。

胡麻目川にかかる小さな橋を渡ると、緩やかな坂道が東に延びています。周囲は樹木が茂り、多様な植物、野草が自生し、湧き水には沢ガニを見かけることも。景観も良く散歩にはもってこいの坂道です。

安全の面から数年前にコ

景色と住み心地のよさが自慢

吉田西

吉田西地区は吉田区の西側最上段に位置し、眺めがよく、水田や果樹園に囲まれた山紫水明の地域です。昔からの住人が大半を占め、住民同士の交流が盛んで住み心地のよさが自慢です。常会は、吉田第四・第五・第六・第十三常会の4つからなり、総戸数は114戸で、地区の人口は409人です。

現在の吉田西地区館（旧農協吉田支所）が建つ場所には、大正から昭和の初期に「信陽館」と呼ばれる製糸工場があったそうです。養蚕全盛期には、さぞかし賑やかだったことでしょう。

最近の地区独自の活動には、65歳以上の方を対象にした「シニア会」や誰でも参加できる「ゴルフクラブ」結成の他「分館マツレットゴ

吉田中

吉田中分館 訪ね歩き

「吉田牛蒡」はいまいずこ

「吉田牛蒡」牛蒡大根」と聞けば、60代半ばすぎの方には懐かしいはず。吉田では牛蒡が、牛蒡では大根が、それぞれの土地に合っていることを言い表したもので、その通りかつては広く栽培されていました。

飯田下伊那は「信州の伝統野菜」の宝庫。選定75品目（平成28年3月現在）のうち、実に3分の1近くは24品目が選定されています。残念ながら高森町に伝統野菜はありませんが、吉田牛蒡・牛蒡大根のように、風土を上手に活かした先人の知恵や技に謙虚に学ぶことを心がけたいと思います。



歩けば好きになる「あげの坂」

「猫」を訪ねて

吉田第七常会の辻に、石に猫が刻印された「猫神様」の石像があります。養蚕が盛んだった当地方には、大まで以上に、地域の住民同士が支え合える体制づくりを目指しています。

「あげの坂」は吉田第八常会にある、自然豊かな坂道。かつては子どもたちの通学路で、今は地元の人々が利用する生活道路です。

胡麻目川にかかる小さな橋を渡ると、緩やかな坂道が東に延びています。周囲は樹木が茂り、多様な植物、野草が自生し、湧き水には沢ガニを見かけることも。景観も良く散歩にはもってこいの坂道です。

安全の面から数年前にコ

ンクリート舗装が施され、姿を変えたあけの坂ですが、時間が経過することで周景に溶け込み、かつての味わいが取り戻されることが期待されます。

吉田南

最も若い分館です

吉田南分館は、吉田区の最下段。天竜川とJR飯田線の間にあり、南は大島川、北は吉田東公園南側を東西に延びる道路を境に吉田東分館と接しています。「吉田河原」とか「吉田団地」と言ったほうが解りやすいでしょうか。

三六災害の復旧工事がすすみ、昭和39年8月に天竜自動車教習所が開校し、40年代に入り、県営住宅・県職員住宅等の建設・区画整備・分譲住宅建築ラッシュが始まり、みるみるうちに家が建ち並んでいきました。当初は吉田東に入り、南小の給食費の1/3を集金する大世帯でした。

昭和52年に吉田南となり、町内で最も若い分館です。現在293戸603人と数字上は大きな分館ですが、高齢者率は町1番のようです。

といっても、皆さん元気です。昭和55年に発足した卓球クラブは、現在も週1回の活動をしています。他にも茶道クラブ・夜間ソフトボール・カラオケクラブ・パッチワーク・おどりの会等多様な活動をしています。

運動に関しては、盆野球への参加や平成25年度の運動会で優勝を果たした事、住民が若かった20〜30年前に遡れば、野球・卓球など町の行事で複数回優勝をし

が特徴です。住んでいて不安なのは、三方を川に囲まれているので、大雨や堤防の決壊の時は水没してしまう事。高齢化に伴う地区の機能低下と現体制の維持が続けられるのが今後の課題です。



H25.町民運動会で2度目の優勝

牛牧

牛牧区の分館自慢

牛牧区は近年広域農道の開通や、高森町の子育ての環境などの影響により、若い方々が近隣の市町村から移住され、町内でも活気があふれた区となっています。

また、地域に古くから伝わる伝統芸能（牛牧義士踊り、獅子舞）などに、積極的に参加し先輩方から多くを学ぼうとする姿勢が見られ、若者同士だけではない幅の広い交流が進んでいます。毎年、牛牧神社春季祭典には、子供からお年寄りまで多くの人が集い、若者たちが勇壮な獅子舞を奉納します。そんな姿を子供たちが真似をして、みつば保育園では獅子舞ブームがで

きるほどでした。区内には9つの常会があり、常会対抗のスポーツ大会が行われ、ソフトボール、ワンバウンドふらばーるバレーなど、楽しみながらもレベルの高い白熱した戦いが繰り広げられます。今年度は分館対抗の大会でも、男女ともに優勝するほどの成績を収めています。大会後の慰労会では、大いに盛り上がりお酒の量もすごかったそうです。

今年行われた区民運動会では、常会によって戸数の差が大きくなってきたという課題が問題になっていました。9つの常会の人



やったー！アベック優勝だ！！

上市田

歴史と文化伝承の上市田区

上市田は「よくまとまっている」と言われます。異なる意見があってもお互いに気遣える気持ちがあるからだと思えます。町の運動会やスポーツ大会ではチームワークを発揮し数多く優勝もしています。また古くからの歴史があり、古墳群や松岡氏初代の築いた古城、樹齢600年の一本杉、荒神社跡や戦国時代に造られた清水堀用水路があります。武田信玄の命により伊那街道沿いに伝馬屋敷、市田宿ができ江戸時代は栄え、当時の面影を



太陽光パネルがのった区民会館

路があります。武田信玄の命により伊那街道沿いに伝馬屋敷、市田宿ができ江戸時代は栄え、当時の面影を

大島山

伝統芸能を受け継ぐ若者達、新しい時代へ

高森町の上段中央に位置する大島山地区は眺望に優れ、南アルプスの景色に憧れて引越されて来た方もおられるくらいです。人口は町内で2番目に少ない、140戸程の弱小地区ですが、団結力は強く町民運動会や盆野球などでは上位に食い込む健闘をしてくまっています。

また、町の史跡の中でも欠かすことのできない瑠璃寺にまつわる地名や屋号もみられ、区民の多くは檀家であり、かつ、瑠璃寺の守護神である日吉神社の氏子でもあるという、神仏混淆を色濃く残している、珍しい地区でもあります。

しかし、後継者問題には頭を悩ませており、とりわけ未婚男性が多い事と、子供の数が少ない（現在小学生17人）という現実、将来に不安を感じさせます。これは、県の無形文化財に指定されている「大島山の獅子舞」の後継者問題にも大きく影響しています。かつて御養子さんや新住居者、女性に押し排他的であったこの伝統芸能も、あぐらをかいてはならぬ状況になってしまっています。

そんな中、2012年に行われた瑠璃寺開基

出原

偉人と、四百年の宝泉寺

高森町出原は、高森町の中央部に位置しています。出原とは、江戸期から明治にかけて出原村という村でした。その後、明治22年に市田村の大字となります。このころから、「出原村」ではなく、「出原」と呼ばれるようになりました。昭和32年から高森町の大字になりました。



宝泉寺千体仏（町有形文化財）

出原出身の有名人としては今村清之助（1849〜1902）という人物がいます。今村清之助は日本の模範的銀行とされる今村銀行を設立した人物で、全国各地の鉄道事業にも関わり日本の交通運輸の発展に大きく貢献した人でした。また、教育者で児童文学者の宮下正美（1901〜1982）もいます。

900年祭を機に、20代の若者が中心となって、途絶えていた「陵王の舞」を復活させました。これが継承問題解決の糸口となり、それまでの確執が一気に解けるきっかけになったように思います。今では、子供も女性も分け隔てなく誰でも獅子舞に参加できる基盤が



復活！「陵王の舞」

できました。こうした中、駒ヶ根の光前寺にて獅子舞の奉納をさせていた、だこうという案が出ています。光前寺には、全く同じ「面」と「獅子頭」が残っているものの、獅子舞そのものは絶えてしまっただけです。さらには本家比叡山の日吉大社での奉納の可能性も高まり、伝統芸能継承における新しい時代の到来を感じざるを得ません。毎月一回欠かさず陵王の舞の練習を行なっている3人の若者は、これからの時代の象徴であり、希望でもあるのです。

山吹上分館自慢

地区には、歴史的財産も多くあります。



1、隣政寺(通称「山の寺」)
本尊「千手観世音菩薩」山
号「普門山」院号「常願院」大
正元年(1573)日得上人
により開山され、創建以来
日蓮宗であったが、本寺の
江戸感応寺が元禄年間に、
幕府の日蓮宗不受不施派へ
の弾圧により天台宗の寺院
となったことから、同寺も
天台宗に改宗した。

4、町指定文化財 本学神社江戸末期には、伊那にも平田の門人岩崎長世のように、国学を学びながら和歌を作る人達が多く往来するようになり、山吹藩の重臣片桐春一も、歌よみの祖父の影響で国学にひかれ、安政2年進んで平田の門に入り、同藩の人々をさそって、義雄集と名付ける勉強会をおこした。（地区計学書参考）

また、地区長にいろいろ

分館自慢を聞きました。
グループ活動、ソフトク

ラブ(夜間ソフト)これは7月〜10月、スポーツを通じて親睦を深めるためである。ひまわりグループ(健康について)女性。竹の子会(読書会)女性。すずらの会(20〜40代)。

女性グループは年3〜4回コミュニケーションを進める上でのグループである。そして分館の行事等により住

民同士の交流、納涼祭、敬老祭等の活動も行っている。

また、自慢することは、この地域に咲く果樹園の花そして景観です。また、今後の課題として、女性ふるさと会がなくなつたため女性組織が無いことだそうです。各常会も人選の確保に頭をかかえているようです。

地味にすごいんだに

地区内には、山吹領主座で参加して行っています。

光寺為真氏が陣屋を構えてから30〜40年後の、寛永年間（1624〜1643）創立の泰山神社や、座光寺氏の菩提寺で、天文〜永禄年間（1532〜1569）

他にも2年に1度分館の日帰り旅行があり、本年度は富岡製糸場〜上田真田丸大河ドラマ館に32名の参加で行われました。

創立の天台宗寺院領法寺などがあります。領法寺には当地方には珍しい大きな円形をした月輪塔や、七代座光寺兵衛為忠公木像など貴重な文化財もあり、古い時

住民で作るグループには、町のソフトボール大会に参加しているソフトボールチーム、定期的に練習を行っているバレーボールクラブ



下平分館の おらが自慢

地区総戸数99戸 住民人口297人
平成28年10月

項 目	取材内容
下平地区の史跡とそれにまつわる歴史やいわれ 【松木土場の九頭竜大権現】	今から175年程前。時は天保年間（1830～1843年）。凶作で日本中が飢えていました。天竜川兩岸の村々は水害から田畑を守り、水を引いて田を作ろうと懸命でした。そのため洪水から田畑を守る堤防は、たいへん重要なものでした。当地区は正徳の末（ひつじ）満水（1715年）と言われる大水害をはじめ天竜川の氾濫にたびたび見舞われてきました。これにより下平の天竜川堤防完成記念に、九頭竜大権現建立となりました。九頭竜は1身九頭の竜であり、九頭は諸竜の王と見なされており、西方守護の竜王、水をつかさどるものとされています。九頭竜権現を堤防上にまつることにより、堤防の堅固と水難除を願ったものとされています。いかに当時より水防・水利に苦心したかがうかがわれます。近年は桜の木が大きく成長し、春にはお花見で賑わっています。弘化3年（1845年）12月建立
下平地区の住民で作るグループとその活動と目的 【えだ豆の会】	『下平の農業を考える』をテーマに地区内の有志で、平成12年に結成されました。これまで16年間活動を継続しています。現在会員数13名。約10aの農地を借用し、これまでにキクイモやアマランサス、グループ名でもある枝豆を栽培してきました。ここ数年は京イモ、さつまいもを栽培しています。さつまいもは干しイモとして加工し、販売できる品質などの研究をしています。また、年間を通じた共同作業や農政視察などに積極的に参加し交流を深めています。
下平地区の住み心地 住みやすさ 住民同士の交流	下平地区は地名のとおり、山吹下段のほぼ平坦な地形の場所に位置しています。近くにはJR下平駅、国道153号と交通の利便はよく、標高450m程度で積雪も少なく、住みやすいところです。戸数は99戸と高森町全体でも比較的規模の小さな地区であり、その分、地区内の住民同士の活動、交流にもとまりがあります。
下平地区独自の活動や行事 【カラオケ大会】 【納涼祭】 【敬老祭】	下平分館独自の行事として、カラオケ大会を視聴覚部、敬老祭を教養部が取り組んでいます。また、町民運動会が行われない年は、納涼祭を帰省者が増えるお盆の時期に開催しています。
下平自慢ひとこと 【念願の集会所】 九頭龍会館	平成28年2月念願の下平集会所が完成しました。これまで近くにあった会所は老朽化が進み、使いづらいこともあり地区内の皆さんの長年の積立金と高森町の支援により建設されました。これにより、避難施設として災害時の拠り所となりました。また、建設にあたり行われた発掘調査において、平安時代の遺構の存在が確認されました。山吹にはめずらしく遺構が発見されたことは、古くから栄えた証でもあります。
下平地区の今後の課題 【少子高齢化】	高齢化は当地区のみならず、高森町をはじめ全国の課題でもあります。老年人口割合は高森町全体で30.7%（H27）。下平地区はこれより少し高いものと思われ、少子化に伴う若年層の減少など、今後の地区の活力の低下が危惧されます。



また運動会やスポーツ大会では非常にまとまりがよ

く好成績を残しており、住民同士の交流も盛んです。

今後の課題としては、少子高齢化が進み、家の後継者離れ等もあり、地区の人口減少が心配です。若い方が気楽に移り住めるような



2年に1度の分館旅行

上平地区公民館の
おらが自慢

地域作り、住宅地作りなど環境に配慮した取り組みが必要です。

上平地区公民館活動は文化祭、成人式等の大きな事業に協力、また、地区をまとめる活動として、本館スポーツ大会に参加、スローピッチソフトは今年全力プレーで優勝を勝ち取り、ワンバウンドふらばーるバレーも大いに善戦しました。分館は地区を対象にペタンク大会等を体育部が実施、地区内の一層の親睦を図っております。

を過ごしています。視聴覚部は記録ビデオ撮影を行っております。図書部は月一回の図書貸出しを行っております。また、分館報「コノハズク」を発行し、事業計画、同好クラブの紹介、スポーツ大会の報告をしています。活動拠点である防災センターが完成後、地区の皆さんには今まで以上に有効活用出来るよう、事業の見直しを進めていきます。グールー

教養部は敬老会や毎年恒例の納涼祭を行い、子供からお年寄りまで楽しい時間

た会所
金と高
時の抛
平安時
れたこ

した。これまで近くにあって区内の皆さんの長年の積立により、避難施設として災害にわたれた発掘調査において、はめずらしく遺構が発見された。これは、戦時中、この地区が全国の課題でもありました。平地区はこれより少し高いところにあるので、戦時中、戦後の地区の活力の低下が

下平集会所が完成しま
づらいこともあり地区
設されました。これに
た、建設にあたり行な
されました。山吹に
証でもあります。

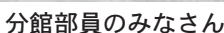
平成28年2月念願の下は老朽化が進み、使用が困難な森町の支援により建設されました。また、現代の遺構の存在が確認され、古くから栄えた高齢化は当地区のみならず、人口割合が高森町全体に波及し、少子化に伴う人口減少が続きます。

<p>【納涼祭】 【敬老祭】</p>	
<p>下平自慢 ひとこと 【意願の集会所】 九頭龍会館</p>	
<p>下平地区の 今後の課題 【少子高齢化】</p>	

最後に取材に協力して頂いた役員の皆様有難うございました。

す。趣味と教養を活かし親睦を図り、楽しく今後も活躍していきます。

今後の分館に希望する事業のアンケートで取り上げた、ボーリング、映画鑑賞、ウォーキング、焼肉大会、常会対抗競技会、遠足会等々の要望を積極的に取り入れて、常に新たな発想により、地域住民の教養を高めるとともに、親睦を図って行きます。分館部員皆さんの熱意ある活動に地区の皆さんも協力し地域づくりを進めております。今後、更に地域の歴史を学ぶ文化的な香りのする事業を取り入れ、女性の方にも、より一層活躍して頂けるよう尽力してまいります。



駒場分館おらが自慢

面積約300ヘクタール
山吹区のほぼ中央に位置
しています。保育園、小学
校、金融機関などが地区
内にあります。

には今年の12月に、山吹
防災センターが地区内に
完成し、防災意識も高ま
りつつあります。

ります。また、役場支所
大型店舗、病院、薬局、G
Sなども徒歩圏内にあり、
住みやすさ・子育てのしや
すさは、他の地区にはない
のではないのでしょうか。更
子育てのしやすさに関係
しているのか、山吹保育園
の西に、古くから安産・子
育ての神様として、近郷の
初嫁様のお参りが絶えなかつ
たといわれている子安神社



元気いっぱい「子安太鼓」

があります。今年行った地区のミニ運動会でも、大勢の子供達の元気な声が響きわたりました。次に、地区の住民で作るグループの一つ「子安太鼓」を紹介します。現在子供15名、大人13名、うち女性21名と女性が多く活躍しています。地域住民の交流、地域の活性化を目的とし、約12年前より始まり、平成17年度子安神社春祭り、6月のほたる祭り、11月のふるさと祭り等で演奏をしています。今後の目標は「何年経ってもグループの存続!!」だそう

で、太鼓の演奏のように、力強く続けていってほしいと思います。

龍神に見守られて

山吹では最も温暖な地、竜口は、現在3つの集落(竜口・小沼・原城)から成っています。

蛇行を繰り返してきた天

竜川が、台城と河野(豊丘村)側の岩壁に狭められて最後の蛇行をし、流れ出た所が竜口です。こうした地形や、大蛇・龍にまつわる古くからの伝承等が重なり合って、この地名が生まれ

龍の里会館に集います。最後に、地区に残る文化財を紹介。史跡「原城跡」は、松川町との境にあります。戦国時代に龍口氏が築いたといわれるこの城は、当時の領主松岡氏の北端の抑えの機能も備えていたようです。また、「竜口の御蔵」は、江戸時代最大の飢饉「天保の大飢饉」直後に建築された米蔵です。明治時代以降は、共有倉庫・農協貯米庫として昭和45年頃まで使われていました。先人の相互扶助精神を象



「龍神の舞」の神社奉納

新田

生きる地域の声を伝える宝モノ

公民館報たかもりの600号発刊おめでとうござい

と、ここで皆さん、分館や地区で新聞を出しているところがあることを存じで

世代を越えて住民が親しみ楽しむ納涼祭・スポーツ祭・ふれあい祭り・文化祭・ふれあいサロンなどは、

地区で新聞を出しているところがあることを存じで

昭和50年から出されている分館だよりを前身として、昭和61年3月に第1号が発

地球温暖化防止活動

将来を見越しての活動

100

たかもり環境塾

私たちの活動も10年を超えることになりました。活動内容は状況の変化に合わせて進化し、現在は予測される温暖化による気候変動

私たちが推進する土中の微生物に作物を育ててもら

微する建物であるとして、町の文化財に登録されています。共に貴重な文化遺産

私たちが推進する土中の微生物に作物を育ててもら

気候変動による農地の喪失は世界的に広がっています。いずれ食料危機の影響

私たちが推進する土中の微生物に作物を育ててもら

私たちが推進する土中の微生物に作物を育ててもら

私たちが推進する土中の微生物に作物を育ててもら

私たちが推進する土中の微生物に作物を育ててもら

私たちが推進する土中の微生物に作物を育ててもら

私たちが推進する土中の微生物に作物を育ててもら

私たちが推進する土中の微生物に作物を育ててもら

私たちが推進する土中の微生物に作物を育ててもら

私たちが推進する土中の微生物に作物を育ててもら

私たちが推進する土中の微生物に作物を育ててもら

私たちが推進する土中の微生物に作物を育ててもら

まちのとしょかん

100万冊のデータベースからスマホで本を予約する

読書について「その道の専門家が何年も何十年もかけて習得した知識や技術を

私たちが推進する土中の微生物に作物を育ててもら

私たちが推進する土中の微生物に作物を育ててもら

私たちが推進する土中の微生物に作物を育ててもら

私たちが推進する土中の微生物に作物を育ててもら

私たちが推進する土中の微生物に作物を育ててもら

私たちが推進する土中の微生物に作物を育ててもら

私たちが推進する土中の微生物に作物を育ててもら

私たちが推進する土中の微生物に作物を育ててもら

私たちが推進する土中の微生物に作物を育ててもら

町図書館を使い尽くす…

図書館活用術

11月4日(金)夕方、視聴覚室にて「スマホで本を借りる・ビジネス情報を探す」と題して活用講座を開催しました。「活用術講座」は今後も定期的に開催していく予定です。上手につかって仕事や暮らしに活かしてください。

インターネットをつかったビジネス情報について、ポイント解説したのは高森CATV「本の森通信・まる読み」コーナー担当の、毛涯まるみ司書。

信頼できるビジネス情報をさがす

①目的を明確にする
②出典・調査方法の信頼度を確認する
③本を併用する

子どもと共に使おう

町から子どもに絵本を贈るブックスタート事業の追跡調査結果によると、読書するよさは「楽しく」「知識を得て考えることができる」「理解力がつく」「感じる力がつく」ことであると、南北小学校2年生の保護者の

読書のみならず、親子で図書館を使うことで、公共物を大切にすること、貸出期限などマナーを守る意識を育てることができます。

また本の予約をしたり、調べ物による資料活用では、職員は大人と同じように対応しますので、町図書館の利用体験によって、自信を持って施設をえるようになります。

身近な図書館の継続的な利用は、公共意識を育て、町づくり参加への一歩となるのではないのでしょうか。

年末年始休館のお知らせ

12月29日(木)より1月4日(水)まで

休館中の返却は「返却ポスト」をご利用ください。ご理解とご協力をお願いいたします。



お父さんが教える図書館の使い方 赤木かん子 著



リンク集が便利な町図書館のホームページ